

6月の総会・懇親会と同日開催もアリ？

どうする？どうなる？

「就職相談会」の
未来予想図

長く続く伝統とは、頑なではなく、時代にに応じて微細な変化をし続けるものである。札幌南高校卒業の大学生およびその子女を対象に、六華同窓のOB・OGが親身かつリアルなアドバイスを提供する第31回「2025年度就職相談会」が、昨年の11月22日（土）に東京・豊島区東池袋の緑丘会館（小樽商科大学同窓会施設）を会場に開催。例年通り、第1部の基調講演では千葉商科大学基盤教育機構准教授の常見陽平さん（南43期）が学生たちにエールを送り、その後は学生と相談員と一緒に二つの車座を構成しての情報交換した。続く第2部では記念写真の撮影と同会場での軽食パーティ（懇親会）でいったん締め、近場のビストロでの2次会に移動。相談会のみで帰宅した男子学生を尻目に、相談員を含む女子は全員が2次会に参加した。

25年度の参加学生は同窓子息を含む8人（男子4・女子4）。学生兼相談員として参加した内定者（大学3年生）も1人いた。過去7年・5回分の開催実績は、14人（18年度）→16人（19年度）→（コロナ禍自粛）→25人（22年度）→12人（23年度）→8人（24年度）の順。特筆すべきは、リクルートスーツでの参加がたった1人だったことではなく、事情により懇親会からの参加者はいたものの、申し込み後のキャンセル（当日キャンセル含む）がゼロだったことだ。おおらかで律儀な世代特有のキャラクターがうかがえ、末広がり希望が持てる8分の8である。が、2年連続で参加人数1ケタという事態を鑑みるに、「就職相談会」が曲がり角を迎えていることは明らかだ。

就活のスピード感に追い付け！

事務局が把握しているこれまでの経緯として、現行では「就職相談会」は毎年11月に開催しているが、就活スケジュールの早期化や就活形態の多様化などにより就活生のニーズに合わなくなっていた。今は大学4年生からの就活は遅すぎであり、大学3年生の7月からオープンカンパニーやインターンシップを開催する会社にエントリーして、当該年度末には実質選考が行われ、昭和生まれ世代が思うよりも半年から1年以上も早く内定（のようなもの）を得ていくのである。22年度の「就職相談会」には大学1年生が2人も参加して驚いたこともあったが、今では納得。就職活動の早期化はコロナ禍を経てスタンダードになった。厚生労働省が指摘しているように、「落ち着いて学業に集中するためのルール（就職協定）には一定の意義がある」ものの、半ば形骸化している。

事務局で議論されている見直し案

以下は、これまでに東京六華同窓会事務局で議論されている「就職相談会」の未来予想図である。決定には事務局→学年幹事会（5月）→総会（6月）のプロセスが必要。すぐの見直し開催は微妙なところだ。

- ①開催時期の前倒しは必須？：オープンカンパニーやインターンシップの開催時期に合わせて、「就職相談会」の開催を、現状の11月から6月に前倒ししてみてもどうか。
- ②終日、東京六華イベントもアリ？：いっそ、毎年6月に開催されている「東京六華同窓会 総会・懇親会」との同日開催はどうか。この1日に相談員と事務局スタッフの体力を集約し、午前枠で就職相談会を開催するのであれば、昼の時間帯の「六華ワールドフォーラム」の「前」は空いている。夕刻の総会・懇親会との相乗効果、参加人数増も期待できる。担当スタッフの負担増がネックか。
- ③新卒に絞る必要は？：就活のテクニックについては、昔は放任だったが、今は大学においてしっかりと指導している時代である。就職面談に備えた度胸試しではなく、社会人の先輩がどのような意識で働いているか、現代の就業感やキャリア感はどのようなものかなどを知ってもらう機会と位置付けてもよい。漫然と就職してしまった第二新卒の参加も許容してみてもどうか。
- ④受け身ではなく、主体性を持たせる：ボランティアの相談員は学生参加者と同時募集であるが、相談員をあらかじめそろえておき、事前に業界や企業名をある程度明示してから学生の募集をしてみてもどうか。さまざまなロールモデルと向き合い、自己分析と主体性をもって、「自分はどのような職種に向いているのか」「どのような業種を希望したいか」への気付きを得る場でもよいはず。

東京六華同窓会会報（通算）第138号
2026年1月16日発行

〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目2番15号
浜松町ダイヤビル2F

東京六華同窓会 広報委員会

デザイン・制作 /
（株）メディアクリエイションズ

⑤ネーミングの変更:「就職相談会」から「キャリア相談会～社会人の働き方～」や「就活を控えて、自分を見つめ直そう～何をしたいのか、何が向いているのか～」など、名称変更も検討する。

就職相談会→ワールドフォーラム→総会・懇親会

以上、五つの改革案の中では、「6月開催案」が有力である。実施時期が今年なのか来年以降なのかはさておき、事務局では①と②の案をすでにシミュレーションしている。「東京六華同窓会 総会・懇親会」と「就職相談会」をドッキングするとなると、海外ベースで活躍する六華同窓の講演会である「六華ワールドフォーラム」(昼時)の前、早朝に組み込まれる。夕刻にはメインの総会・懇親会もあり、公式行事だけで1日に三つ。来年度予算だが、費用は前倒し執行ということになるはず。学年幹事会への起案と根回しも必要だ。変わるべき「就職相談会」、それは単に意識の問題ではなく、関係各所との物理的な連携と人的負担も同時に意味するのである。

最後に私見を述べると、私と東京六華同窓会との最初の縁は1996年11月、大学3年次に参加した第2回「就職相談会」だった。それを契機として、「六華」の名の下にある伝統を知った。仮に、「就職相談会」が6月の総会・懇親会とワールドフォーラムと同日開催になった場合、同期たちとの集いも総会・懇親会の後にきっとある。四つである。堅忍不拔なサラリーマンには愚問だろうが、あえて指摘しておこう。6月20日(土)は、同窓会行事が満載の1日になる。昭和のエナジードリンクのコピーにもあったが、あなたは、そんな24時間を戦えますか?

広報委員会 北條貴文(南43期)

千葉商科大学基盤教育機構准教授の

常見陽平さん(南43期)は「就職相談会」の今後をこう見る

「就活を意識し始める時期として、いまやインターン対策が主戦場になっており。最近の就活の傾向としては、上位校の学生とそれ以外でだいぶ動き方が変わりました。売り手市場の自覚はありますが、上位校の学生は外資や商社に行きたいので、前のめりなのです。①と②に関して、就職相談会だけ参加するOB・OGへの配慮は必要かとは思いますが、6月開催案と、総会・懇親会とワールドフォーラムとの同日開催案はナイスかと。午前中の相談会からそのまま午後帯の六華イベントに参加して諸先輩の話を聞けますし。私も全日参加しますよ!」



基調講演中の
常見陽平さん(南43期)と、
常見さんの最新著書
『日本の就活——新卒一括採用は
「悪」なのか』(岩波新書)



第31回「2025年 就職相談会」の記念写真。

参加学生の内訳は、
南74期(現役合格で大学2年生)が
6人(子息1人含む)、
南73期(同・大学3年生)が2人。
中央右は
福山賛次郎・東京六華同窓会幹事長(南23期)



東京六華同窓会2026総会・懇親会

「華を咲かそう。風を吹かそう。」《開催日》2026年6月20日(土)

《会場》第一ホテル東京 東京都港区新橋1-2-6
最寄り駅: JR 新橋駅、都営三田線内幸町駅



実行委員長
鈴木奈央
(南42期)

皆さん、こんにちは!このたび、東京六華同窓会2026総会・懇親会の実行委員長を務めさせていただくことになりました南42期の鈴木奈央です。これまでPR活動のため札幌での同窓会やイベント等に参加してたくさんの先輩・後輩の皆さんと交流させていただきました。そのたびに改めて札幌南高校のタテヨコのつながりのすばらしさを実感し、皆さんに喜んでいただけるような同窓会にしたいという思いが強くなりました。2026年の東京六華同窓会は、6月20日土曜日、2025年と同じく新橋の「第一ホテル東京」にて開催いたします。昨年実行委員を担当された南41期の皆さんのご協力もあり、同じ会場で開催できることになりました。



札幌での2025六華同窓会にて

今年のテーマは、「華を咲かそう。風を吹かそう。」です。「華が咲き、風の吹く」場となるような会をつくり上げそこに集っていただきたい、という願いを込めました。同窓生一人ひとりの華は大きさも色も異なりますが、一堂に集うことで鮮やかな大輪となり輝きを放つことでしょう。2017年の札幌、2026年の東京と、同じ期で実行委員長がどちらも女性というのは初めてということで、120周年を迎えた長い歴史のある東京六華同窓会に“新風”を吹き込み、新たな1ページを付け加えられたら、とも思っております。久しぶりに顔を合わせ、語り、笑い合う、そんな心温まる場になるよう準備を進めてまいります。私たち南42期、52期、62期が力を合わせて皆さんをおもてないたします。お忙しい日々とは思いますが、たくさんの同窓の皆さんのご参加をお待ちしております。また、6月の開催に向け、プログラムの広告や協賛の募集を2月より順次開始いたしますので、ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。2026年6月20日土曜日、新橋の「第一ホテル東京」で皆さんにお会いできますことを心より楽しみにしております。



東京・世田谷区在住の及川昌樹さん（南54期）
／撮影：美術手帖編集部

高校在学中にもらえた賞といえは皆勤賞くらい？ 2026年は年始より、同窓からのうれしい表彰報告が相次いだ。
まず、1987年に発足した東京タイプディレクターズクラブ（Tokyo Type Directors Club）、略して「東京TDC」が主宰する国際的なグラフィックデザインコンペティションとして1990年から毎年発表されている「東京TDC賞」の受賞者が発表された。本年度の「東京TDC賞2026」にて入選の栄誉に浴した作品は、資生堂に努めつつフリーで創作活動を行っている及川昌樹さん（南54期）が手掛けた「札幌南高等学校アイデンティティ」。同作品は応募総数3605作品（国内1649・海外1956）から入

無償の母校愛が結実。 年始よりうれしい知らせが相次ぐ

及川昌樹さん（南54期）×東京TDC賞入選、
六華ゼミ（札幌）×文部科学大臣表彰

選を果たした412作品のうちの一つで、「マーク&ロゴ／コーポレートステーションナリー／ブランディング」カテゴリーにおいて選出された。副題として及川さんが命名した「RIKKA IDENTITY」のコンセプトは、「M Links, Grows, and Crystallizes」。すでに札幌南高校の「V.I.（ビジュアルアイデンティティ）」として、野球部のユニフォームや硬式球、ラグビー部の練習用ボールなどに意匠が採用されている。

「ひとりひとりの南高生やOB・OGを、Mの文字に象徴させ、それらがつながり、重なり、輪になり、広がっていく。そうしてできたコミュニティ。いわば結晶が『六華』となることを表現しています。その結晶は常に変化し、形を変えながらも成長し続けていくのです。六華Ⅱ雪の結晶ができる瞬間を切り取ったような、動きのある形を目指しました。母校と仕事ができただけでも感慨深かったのですが、その成果が国際的に評価され、本当にうれしく思っています。デザイナーのキャリアにとってもTDC入選は名誉なことなので、喜びは倍増です。今後グッズの製作・販売も予定しています。お楽しみに！」と及川さん。



野球部やラグビー部の部活用具に「RIKKA IDENTITY」を使用



「東京TDC賞2026」入選（Tokyo TDC Annual Awards 2026 Excellent Works）
作品「札幌南高等学校アイデンティティ／RIKKA IDENTITY」

加えて、「第18回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」において、「同窓会の、卒業生による、在校生のための本気講話」（通称…六華ゼミ）が四半世紀に及ぶ功績を称えられた。「六華ゼミ」の始動は2000年で、卒業25年目に当たる南25期生の「2525ゼミ」がその源流となる。起業・医療・研究・経営・海外などに関するテーマについて、各分野の第一線で活躍する同窓を母校に招いて（一部、学生派遣も）実施（年8〜10回）され、講師の選定は企画・運営は、その年の総会・懇親会の当番期が担当。今は六華同窓会札幌（事業の重要コンテンツであり、母校でも現役生に向けたキャリア教育活動の一環として受け入れられている）
今回の栄誉は札幌南高等学校が申請し、北海道教育委員会の推薦によって表彰が決まった。なお、表彰式は文部科学省（東京都千代田区霞が関3丁目）で1月19日（月）に催される。



文部科学省ホームページより

広報委員会 北條貴文（南43期）

公式イベント化も近い!? 秋の名物行事 「六華ジンパ2025」開催

さすが札幌OB・OG、毎年の反省を生かした、傾向と対策でジンパ運営を効率的に刷新！ようやく衣替えを始めた昨年10月12日(日)、朝11時より「BBQ DAYS 両国」にて有志参加による「六華ジンパ2025」が開催。参加者は41人(女子1人・配偶者1人含む)で、参加費は大人ひとり5千円。興味深いことに、大量の肉とビールの効率的な運搬方法や業務用タレの小分けなど、制限時間内で最大限に美味しくジンギスカンを食すためのアイデアが毎年のように手引きとして追加・継承されている。運営は毎年有志のボランティアで行っており、過去の反省を生かして発注量の調整を行うことで、どうにか前年度と同価格での開催を実現した。

「ジンパという、どこか懐かしい響きに誘われて初参加を決めたときからはや1年、そのときのご縁から、今回も参加させていただきました。ジンギスカン、お酒、野菜、何もかも物価が上昇しており、少しでも予算を抑えられたら、との思いから、今回はカット野菜ではなく、あらかじめ切った野菜を用意することにしました。最終的にポストンバッグいっぱい野菜が綺麗に無くなるほど、盛況な会となつてよかったです」と、野菜をカットしてくれた高橋文菜さん(南63期)。稀少なヤング六華の想いに胸と胃袋がいっぱいになった。



タレを小分けする高橋さん(写真中央)。小瓶には「ソラチ」とある(バル「北大ジンパ成吉思汗たれ」もあった)



2025年10月12日(日)に「BBQ DAYS 両国」で開催された「六華ジンパ2025」の様



参加者の1人、鈴木奈央=東京六華同窓会2026総会・懇親会実行委員長(南42期)からは告知チラシが配られた

広報委員会 北條貴文(南43期)

『大晦日オールスター体育祭』(TBS系)パワーウォール種目で優勝! ベンチプレスアジアチャンピオン、藤本竜希さん(南68期)に直撃!

年越しそばを食べながら、昨年末にTBS系で放送された『大晦日オールスター体育祭』を視聴していた六華同窓は、両サイドから壁を押し合うという最も単純な最強力比べ種目「パワーウォール」の決勝戦に熱狂したことだろう。そして、この種目の栄えある優勝者、藤本竜希(ふじもとりゅうき)さん(南68期)がパワーリフティング日本王者であることは知っているが、六華同窓であることを知っている者は少ない。出木杉君のようなガリ勉タイプなどという札幌生への先入観なんぞ今は昔。まさにメガトン級の衝撃である。

年明けに恐る恐る取材申請をしてみると、なんと快諾。真摯に応じてくれた藤本さんに、今回のテレビ出演に関して質問状を投げてみた。ちなみに、藤本さんに決勝で敗れたウルフアロン選手は、2021年東京オリンピック柔道男子100キロ級金メダリストであり、今はプロレスラー(新日本プロレス)に転向している。番組の放送から5日後の1月4日(日)に開催された「NEVER 無差別級タイトルマッチ」にて、対戦相手の王者を變形三角絞めで失神させてレフェリーストップ勝利し、初戦にて即戴冠。その分、藤本さんのすさまじさが更に際立った。なにか六華同窓生に困った事があったらお電話しますので助けてください。今後ともよろしく願っています。

《藤本竜希さん(南68期)に9の質問》

1. 身長、体重、ベンチプレス(握力)他、スペックを教えてください。
177cm、155kg、ベンチプレス400キロ、握力110キロです。
2. テレビに登場された後の家族や周囲の評判は?
数え切れないほどのメッセージが多方面から来て驚きました。
3. 札幌南高校に入学する前の体型を今と比べると?あと、高校時代の部活動は?
入学時の105キロから在学中に140キロまで増えたので、今とさほど見た目は変わっていません。中学2年生からベンチプレス競技に励んでおりましたので「帰宅部」でした。
4. 藤本さんがその体型を維持するうえでの「困ったこと」など、あれば教えてください。
すべて困っています。主に公共交通機関ですかね。高校通学中に自転車のホイールのスポークが4本折れたこともありました(笑)。
5. 旭川医科大学卒と先輩から聞きました。藤本さんが考える「文武両道」とは?
「文武両道」について深く考えたことはありません。筋トレだけやっている「脳金(脳味噌筋肉)」のレッテルを貼られやすいので勉強も頑張りました。
6. センター試験の自己採点は?
780点程度だったと記憶しています。
7. 好きな食べ物と、好きなタイプは?
食べ物ではラーメン、ハンバーガー、タコスが好きですね。妻がタイプです。あとギャル。
8. ベンチプレスアジアチャンピオンとして、これからの野望は?
選手としては今年5月の世界ベンチプレス大会での優勝、そして世界記録である426キロの挙上を目標としています。あとは現在運営しているブランド「Far East Strength」を大きくして、さまざまなフィジカルスポーツで賞金大会をたくさん開催したいと思っています。同窓生の皆さま、大会スポンサーを大募集中ですのでもよろしく願っています(笑)。
9. 東京六華同窓会にひとこと
これからも応援よろしく願っています!



ベンチプレスアジアチャンピオンの藤本竜希さん(南68期)

「六華応援ひろば」(Facebook)も快挙に沸いた

聞き手：広報委員会 北條貴文(南43期)

第13代会長 松岡拓公雄が斬る！ 《連載》建築のジエダイ・マスター

お題（第1回）…大阪万博の建築、今昔



新連載が始まりました。初回は私が建築家を志したきっかけについて、「大阪万博」の思い出を新旧交えてお話しします。1970年の方の大阪万博、正式名称は「日本万国博覧会」になります。開催日の3月15日はちょうど高校2年生の終わりのころでした。どうしても見たい衝動を抑えきれず、終業式の日学校をサボって大阪の親戚の家まで8泊10日の鉄道一人旅に出たのです。到着の翌日、親戚の家で朝食をいただいてから駆け足でお祭り広場まで直行。10日間の大滞在のうち万博に8回行って、アポロ12号が持ち帰った「月の石」を展示したアメリカ館、宇宙船「ソユーズ」の実物が展示されたソ連館、リニアモーターカーや無線電話などの貴重な展示物をかじりつくように見ていました。夕飯の時間には帰宅しましたが、甥っ子のわがままを温かく見守ってくれた親戚に感謝しています。

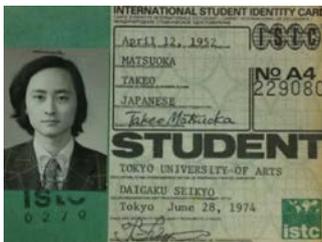
70年の大阪万博で印象的だった建造物は、シンボルゾーンのお祭り広場を覆っていた高さ30m・幅108m・長さ291.6mの「大屋根」（丹下健三設計）と、その中心部から顔を出している高さ70mの「太陽の塔」（岡本太郎・彫刻）の共演でした。この「大屋根」は、鉄のポールを分子構造のようにジョイントし、

たった6本の柱だけで支えられていました。日本で初めて採用された、建築とも土木とも言えないような「スペースフレーム（立体格子）」という技術が、17歳の青年の心を射抜いたのです。「無方向性と増殖可能性」を提案したその建築家が、後に私が新卒採用からお世話になる丹下健三です。後から聞いた話だと、大屋根の丹下案が先にあり、すでに着工した後に視察に訪れた岡本太郎さんは巨大な「何か」を作りたくなつて、「入らないなら屋根に穴を開ければいい」と言い出した。そもそも日本初導入のスペースフレームは当時でも世界最大規模でしたし、強度計算や材料力学は建築家の手計算の時代ですから、少しのミスで屋根が崩れるかもしれないわけです。万博協会の会長が仲裁に入り、すったもんだの末に、半世紀以上も語り継がれるシンボルが完成。当時の丹下健三の建築家スタッフは相当に苦労したと思います。

建築学科を探して大学受験。 しかし…

そのあたりを露も知らずに、当時17歳の私はお祭り広場の前で「人類の進歩と調和」を夢見ていました。結局、入場チケット以外で購入した

ものは、万博の帰りに買った組み立て式モデルガンのワルサーPPKだけ。電灯が割れるほどの破壊力で今では売っていません（少し改造して、BB弾が飛ばせるように）。札幌に戻ってからは漫然と「建築っていいな」と思い立ち、志望校を決めるに当たり、建築を学べる国立大学を探しました。前年の69年には学生運動の激化で東京大学の入試が中止に追い込まれ、内地の大学にきな臭いものを感じていた私の肌合っていた大学が上野の杜でした。第一志望を東京藝術大学美術学部建築学科に定め、Z会の模試では入学定員の15人に入っていたので安心していたら本番で落ちまして、1浪して72年4月に晴れて入学しました。一刻も早く建築を学びたかったのですが、丹下氏も東大に2浪しているのです。まあ、いいかな。学生証の写真は藝大3年時のものです。この4年後に「スター・ウォーズ」にハマることになります。連載タイトルにある「ジエダイ・マスター」とは、善のフォース（理力）を持っている、銀河の平和の守護者です。そこそこ偉いです。



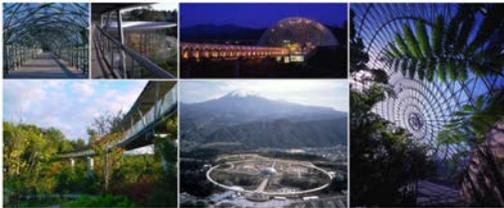
東京藝術大学美術学部建築科3年生時代

懐かしの大阪万博へ （55年振り・のべ9回目）

丹下建築の「大屋根」を大阪万博（1970年）で見たことが人生の転換点でしたが、昨年開催された大阪万博（EXPO2025大阪・関西万博）にも「大屋根リング」という巨大建築物がありました。弟子夫婦の手引きで閉幕前になんとか都合が付き、妻と一緒に訪れたタイミングが10月11日（土）。残す会期はあと2日、しかも184日間の開催期間中で最後の週末という、よくも



大屋根リング



ARCHITECTSHIP 公式 HP より



通称：残念石トイレ



Wikipedia より

こんな日を選んだものだと自分でも思います。朝5時起きで新大阪駅から専用バスに乗り込み、万博でのイタリヤ館に並び、ここでわが人生最長の待ち時間である4時間を経験しました。これも札幌南高校時代に8日連続で訪れた大阪万博への愛着なのか、執着なのか、自分でもあきれほどの忍耐力でした。お昼を前にゲートは人であふれ返り、まるで蜘蛛の子を散らすように来場者が各パビリオンへと吸い込まれていく。こうなると、列を離れて別の館を狙うことなど到底できません。ようやく入場できたイタリヤ館と同様に、他の国もきつと魅力的だったのでしょう。55年後の「大阪万博」来場の目

的は、木造の「大屋根リング」と、私が教授（滋賀県立大学環境科学部環境建築学科）時代のゼミ卒業生が関わった「残念石のトイレ」だけ。ゆえに気楽に構えていたのですが、ぐるぐると周遊しつつ、気付けば1日があつという間に過ぎていきました。長い待ち時間の中で人間観察、大屋根リングのスケール感と構造の把握など、想像以上に収穫の多い体験でした。

開幕前の3月にギネス世界記録に認定された大屋根リングは大阪万博（2025年）のシンボルであり、また内径約615m・外径約675m・全周約2025mにもなる世界最大の木造建築物でもあります。安全性を高める箇所以外、柱を貫通させて楔（くさび）で固めることによる強度を増し、釘を使わずに木組みするという日本の伝統的な貫工法（ぬきこうほう）が採用されていますが、デザイン自体は真新しいものではありません。私が代表建築家として参画したアーキテクトファイブ時代に手掛けた「鳥取フラワーパーク」（1998年）がそのオリジナリティになります。庭園と建築の融合と対比によって、ひと繋りの総体としての環境形成を目指し、自然の地形をそのまま活かした全長1キロもの円形展望回廊が木々の間を通り抜けていく。人間の視線よりもはるかに高い視点や地上、地下と様々な視点から花や木を観察することで、新鮮な周遊体験ができます。鳥取を訪れた際には、ぜひ、遊びに行ってみてください。

大阪万博、今昔

もう一つの目的である「残念石トイレ」にはゼミ卒業生である小林広美さんが関わっており、なかなか興味深いものでした。残念石とは大坂城の石垣に使うために切り出されたものの、運ぶ途中で落下したり、大きすぎて運べなかったり、使われずに放置されたりした石材のことです。そのうちの幾つかを掘り起こして大坂まで運び、それでトイレを建設するというアイデアでした。400年前に切り出された石が、ようやく日の目を見たというわけです。

1970年の大阪万博では、少なくとも「未来が見えた気がしました。今回のEXPOは、55年前の感動とは異質なものです。経済効果という点では成果があったかもしれませんが、しかし若者や子どもたちには何かのメッセージを残し、心を動かすような体験を与えられたのだろうか。そう問い掛けながら、夕暮れの会場を後にしました。ちなみに、見た目が苦手でミヤクミヤクのお土産は買っていません。55年前の太陽の塔と比べて、どっちもどっちと言われそうですが。



妻の由紀子と

聞き手：広報委員会 北條貴文（南43期）

《PROFILE》 松岡拓公雄（まつおかたけお）

南21期。日本の建築家。1952年4月12日、兵庫県姫路市生まれ。71年、北海道立札幌南高等学校卒業後、1浪を経て、72年4月に東京藝術大学美術学部建築科に入学。76年3月、同建築科を卒業。78年3月、同大学院天野太郎研究室修了（寒冷積雪地における建築・環境の研究）、同年4月、丹下健三都市建築設計研究所入社し、多くの海外プロジェクトに参画。86年に（株）アーキテクトファイブを設立し、代表建築家として共同主宰。その後、99年に滋賀県立大学環境科学部の助教授に就任、03年に同学部の教授に就任し、06年に（株）アーキテクトファイブを残し、同時に同年9月に（合）アーキテクトシップを東京と滋賀に設立。建築家兼教育者として同大学にて17年間教鞭を執り、16年に亜細亜大学都市創造学部教授・学部長に就任。22年12月の最終講義をもって同大学を定年退職。主な建築物に、池袋ゼンミュージアム、鳥取フラワーパーク（鳥取展望回廊）、モエレ沼公園およびガラスのピラミッド（札幌市）、赤レンガテラス（札幌市）ほか多数。同窓会行事に積極的に参加する古参であり、14年6月、東京六華同窓会の会長に就任（2期・4年）し、コロナ禍の21年まで歴任。現在は東京六華同窓会顧問。趣味は「スター・ウォーズ」で、78年6月の日本公開時は有楽町の日劇ほかで17回鑑賞した（が今もって飽きない）という逸話を持つ。

